

PET 核医学ワーキンググループ(最終報告)

活動期間：平成 13 年 10 月～平成 14 年 11 月

代表：福田 寛（東北大学加齢医学研究所）

メンバー

- 石田 良雄（国立循環器病センター）
- 井戸 達雄（東北大学サイクロトロンラジオアイソトープセンター）
- 遠藤 啓吾（群馬大学医学部）
- 越智 宏暢（大阪市立大学大学院医学研究科）
- 桑原 康雄（九州大学大学院医学研究科）
- 玉木 長良（北海道大学大学院医学研究科）
- 畑澤 順（秋田県立脳血管研究センター，現：大阪大学大学院医学研究科）
- 御前 隆（京都大学医学研究科）
- 米倉 義晴（福井医科大学）

活動の経緯

本グループは、平成 11 年に採択され、平成 11 年、12 年度は「PET Q&A」の作成、FDG-PET を行うためのガイドラインの作成など、学術的活動を行った。しかし、平成 12 年度から FDG-PET 保険診療採用を目指したワーキンググループ会議、ロビー活動なども含むようになった。また規約によればワーキンググループ継続は、原則として 2 年までとなっている。そこで、平成 13 年度の継続採択に当たって、本グループを FDG-PET の保険診療採用を目指した学会としての窓口と位置づけて活動を継続することにした。また、研究費は辞退することにした。具体的には以下に記すが、日本アイソトープ協会 FDG-PET ワーキンググループとの合同会議、各種要望書の作成およびロビー活動等を行った。また、平成 14 年 5 月の核医学会理事会において、PET 核医学推進のために学会として対処する委員会として PET 核医学委員会（委員長福田，委員 5 名）が設置されたことに伴って、本ワーキンググループは役目を終えた。

活動内容

- (1) 日本アイソトープ協会医学・薬学部会 サイクロトン核医学利用専門員会 FDG-PET ワーキンググループ(鳥塚莞爾主査)との合同会議
 - 1) 平成 13 年 10 月 17 日(ホテル日航金沢)

FDG-PET 検査の保険適用に向けて、適応疾患の確認と適応の効能・効果の範囲について議論を行った。
 - 2) 平成 14 年 3 月 13 日(日本アイソトープ協会)

FDG-PET が健康保険に採用された(3月8日付け、厚生労働省告示第 71 号、同 73 号)ことに伴って、医療用具製造承認前に購入された FDG 自動合成装置の取扱について意見を交換した。また、PET 核医学推進のためのクリニカル PET 推進協議会(仮称)について意見の交換を行った。
 - 3) 平成 14 年 7 月 29 日(日本アイソトープ協会)

今回の保険適応内容の問題点について意見を交換した。また、適応疾患拡大のための調査票(案)について検討し、一部訂正の後、これを全国調査に用いることにした。また、痴呆について行っている調査の中間報告をもとに、意見交換を行った。

臨床 PET 推進協議会(仮称)について，設立の主旨・目的，規約等(案)について意見交換を行い，この案を 9 月に行われる理事会に提案することとした．

(2) 厚生労働省への要望書作成，提出

- 1) FDG 自動合成装置の医療用具早期薬事承認について(平成 13 年 5 月理事会承認，平成 13 年 9 月 11 日提出)
- 2) FDG-PET の健康保険早期採用について(平成 13 年 5 月理事会承認，平成 13 年 9 月 11 日提出)
- 3) FDG-PET 保険点数の増額および共同利用率算定基準の緩和について(平成 14 年 5 月理事会承認，平成 14 年 6 月 14 日提出)
- 4) 放射性医薬品としての FDG 早期供給開始および院内製剤 FDG の保険適応疾患との同一性確

保について(平成 14 年 9 月理事会承認，平成 14 年 10 月 24 日提出)

(3) 関係省庁，関連団体等へのロビー活動

- 1) 平成 13 年 11 月 26 日(鳥塚主査，小西理事対応)

厚生労働省保険局医療課および医薬局審査管理課を訪問．FDG-PET の保険採用の要望を行った．また，FDG 自動合成装置の医療用具早期薬事承認の要望を行った．

- 2) 平成 14 年 4 月 11 日(鳥塚主査，日下部理事対応)

厚生労働省保険局医療課を訪問．共同利用率，転移性肝癌における病理診断など FDG-PET 保険適応上の問題点について意見交換を行った．